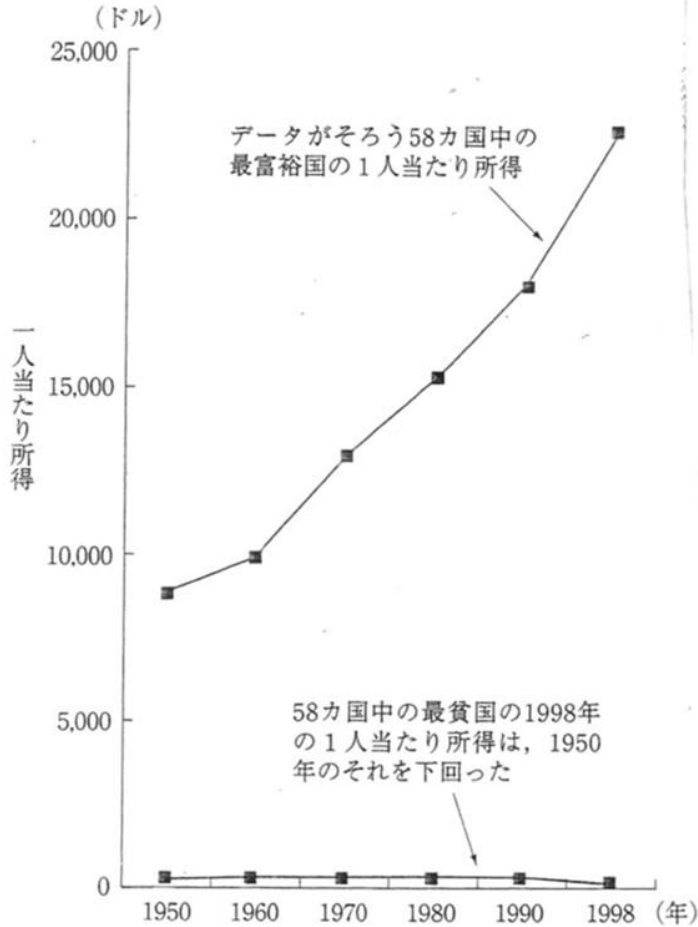


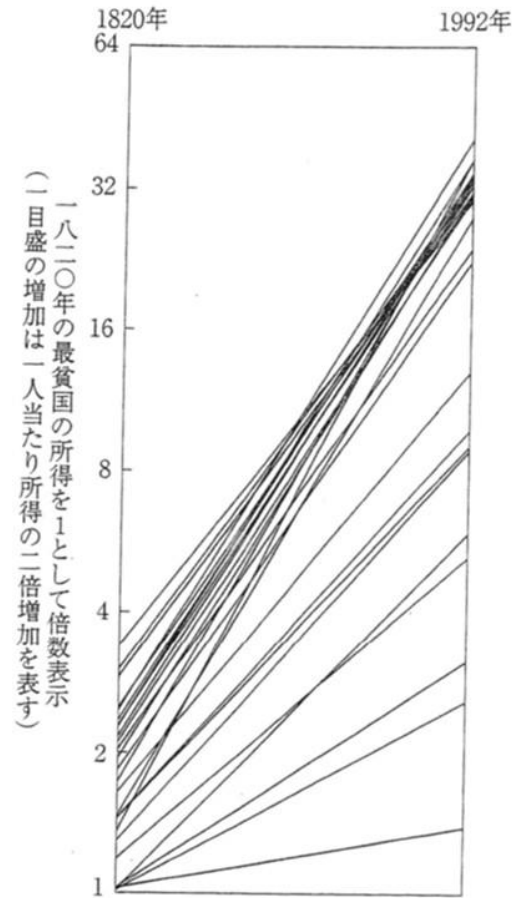
11. なぜイスラム世界は経済においてヨーロッパの後塵を拝することになったのか

- 1. 近代を支えた二つのシステム
— 国民国家と資本主義 —
- 2. なぜイスラム世界は近代において経済で遅れをとったのか—いくつかの仮説
 - (1) 貿易路の変更
 - (2) 経済システム間の競争
 - (3) 資本蓄積システムの欠如

1. 近代を支えた二つのシステム — 国民国家と資本主義 — 後進国にとって厳しい「近代」という時代



過去50年間に、最富裕国の1人当たり所得は上昇する一方、最貧国の1人当たり所得は低迷した



1820-1992年の間、富裕国はさらに富裕になった

2. なぜイスラム世界は近代において経済で遅れをとったのか いくつかの仮説

(1) 貿易路の変更—海のアジア論

- イスラム世界は、その地理的位置から当然予想されるように、その形成から近代まで、いつの時代においても、周辺の世界との関係のなかで存在してきた。そのため、イスラム世界における経済の規模は、対外関係、とりわけヨーロッパ・地中海とアジアとの関係のなかで評価されねばならない。つまり、中央アジアを介した陸路での交易とインド洋を介した海路での交易の規模を推定する試みである。
- この点と関連して、近年、「海のアジア論」が注目を集めている。それは、近世から近代にかけてのインド洋を介した海路での交易の重要性を指摘し、この交流のなかで「アジア」という地域概念が確立したと主張する。そして、そこでは、近世から近代にかけて、対アジア交易の主要ルートが陸路から海路へ移り、海路での交易額が陸路のそれを凌駕するようになったこと、そしてそれにともない、ヨーロッパ商人による海路での交易がイスラム商人による陸路での交易に勝利したことが指摘される。
- 近世・近代の世界経済史で果たしたアジアの役を再評価するため、海域に注目し、モノとヒトの多様な交流に注目しようとする事自体は高く評価すべきである。しかし、イスラム経済史研究にとって、その議論のされ方は決してフェアなものではない。まず指摘すべきは、「海のアジア」論があくまでも「近代」から出発したものだということである。事実、近代になって海は大量輸送ルートとなった。しかし、交易額において、海路が陸路を凌駕するようになったのは何時なのか。そして、そのことをどのようにして数量的に確かめられるのかについて、実証的な研究があるわけではない。

<参考文献>

- 杉原薫(『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房, 1996)
白石隆(『海の帝国—アジアをどう考えるか』中公新書中央公論新社, 2000)
川勝平太(『文明の海洋史観』中公叢書, 中央公論社, 1997)
小林多加士(『海のアジア史—諸文明の『世界』経済』藤原書店, 1997)

(2) 経済システム間の競争 「重商主義」対「イスラム経済」

ブルース・マスターズ (Masters, B.) *The Origins of Western Economic Dominance in the Middle East. Mercantilism and the Islamic Economy in Aleppo, 1600-1750*, New York University Press, New York, London, 1988

- マスターズの議論の出発点は、イスラム商人とヨーロッパ商人は異なる経済システムのもとで活動していたとする前提である。この二つの経済システムは、それぞれイスラム経済、重商主義と呼ばれている。イスラム経済の特徴は、政治が経済、とりわけ課税に対して中立的であったことである。そのため、この経済システムは、政治との関係において、驚くほど自由主義的であった。
- これに対して、ヨーロッパの重商主義の特徴は、政治や軍事と経済との深い結びつきであった。ヨーロッパ商人のキャプチュレーションと呼ばれた恩恵的な国際条約、さらには自国の軍隊の庇護のもとでの活動は、その典型的な姿である。かくて、この二つの経済システムが対抗関係に置かれたとき、その結果は明らかであった。余りにも自由主義的なイスラム経済は、政治と軍隊を味方につけた重商主義経済に太刀打ちできなかった。
- それは、端的には、資本蓄積のメカニズムの差であった。財・サービスの交換の原理と資本の蓄積の原理は異なる以上、それをサポートする制度もまた異なるであろう。そして、資本主義の形成には、財・サービスの交換をサポートするほか、資本の蓄積を可能とする制度が必要である。にもかかわらず、イスラム世界には、後者の制度がなかった、あるいはその必要がなかった。

(3) 資本蓄積システムの欠如

- ①「法人」概念の希薄さ—株式会社の未発達
- ②何世代にも渡る有力大商人家系の不在
—政治の介入・社会的流動性の高い社会—
- ③短期的な契約観